様式第４号（第１０条関係）

地域包括支援センター運営協議会　議事録

審議会等名	令和５年度第１回地域包括支援センター運営協議会
日　時	令和５年７月３日（月）　午後１時３０分　～　２時３０分
会　場	下野市役所　２階　２０３会議室
出席者	被保険者代表（１号）：小林　三千代・伊澤　公惠 （２号）：増渕　晴美・髙山　信夫 医療関係：鶴岡　優子・岩井　弘充 保健関係：髙山　早苗・伊沢　泰直（会長） 福祉関係：角田　充仙・髙田　トモ子 関係団体：坂本　栄一・関　匡代 地域包括支援センター：みなみかわち山下　昌美・こくぶんじ髙津戸　美枝・いしばし中山　恵美加
欠席者	保健関係：鈴木　美弥子
事務局側	福田健康福祉部長 金田高齢福祉課長（基幹型地域包括支援センター長兼務） 基幹型地域包括支援センター：早乙女課長補佐・吉川主幹・大橋主事・深澤主事
公開・非公開の別	公開　・　一部公開　・　非公開
傍聴者	０人
報道機関	０人
議事録作成年月日	令和５年７月１０日

１　開会	司会：金田課長 地域包括支援センター運営協議会設置要綱第６条第２項により、半数以上の方の出席があるので、この会議の開催は成立する。
２　委嘱状交付	変更のあった委員には委嘱状を机の上に配布。
３　あいさつ	伊沢会長
４　自己紹介	委員自己紹介
	（司会） これからの議事進行については地域包括支援センター運営協議会設置要綱第６条により、伊沢会長にお願いする。
５　議事	（伊沢会長） 議題１～６について事務局より説明をお願いする。 （事務局） （１）地域包括支援センターの相談実績について：資料１−１に基づき説明 （２）地域包括支援センターの相談実績経年変化について：資料１−２に基づき説明

	（３）地域包括支援センターの活動実績について：資料２に基づき説明 （４）介護支援業務の委託先居宅支援事業所について：資料３に基づき説明 （５）地域包括支援センター事業方針について：資料４に基づき説明 （６）地域包括支援センター運営業務について：資料５に基づき説明 （伊沢会長） 事前に質問を照会していたと思うが、結果について事務局より説明をお願いする。 （事務局） 増渕委員より事前に２点質問をいただいている。 ①資料１−２の「権利擁護内訳で心理的虐待が増えている点、成年後見制度の利用支援が過去の件数より伸びている点の要因」について回答する。 回答：全国的に心理的虐待に限らず、高齢者虐待が増えている。全国のケースを確認すると新型コロナウイルスの感染拡大によって、外出自粛の要請などで家族の介護負担が増加した。こういったことが要因であると国は推測している。下野市でも同様のことが当てはまると考えられる。 成年後見制度が伸びている要因として、高齢福祉課・地域包括支援センター・成年後年サポートセンター（Ｒ４から開設）で連携して制度の利用を推進している。市の広報等で成年後見相談会を周知したことが、制度の利用に繋がった要因の１つとして考えられる。 ②資料４の「地域サロン等の活動支援と新規サロンの開設支援となっているが、４月末時点で６１か所。今後は何か所を想定しているか。」について回答する。 回答：下野市高齢者保健福祉計画（第８期）において、地域ふれあいサロン開設数の目標が示されており、令和５年度までに６６か所を目標としている。サロンが集中している地域とそうでない地域があり、特に少ない地域におけるサロン開設に力を入れて、進めていきたいと考えている。 （伊沢会長） その他、質問があれば挙手願いたい。 （伊沢会長） 地域包括支援センターの業務が増えているとの見解が示されており、スタッフが足りないとのことだが、仕事の量と人数の合理性はあるか。 （事務局） 国の基準に合った配置にはなっているが、それを上回る相談件数となっているため、配置について今後検討していかなければならないと認識している。 （包括いしばし中山センター長） 相談件数が増えていること、兼務の業務が年々増えている。国の基準を満たすだけでは対応が難しくなるかもしれない。件数自体は同じ「１」でも対応困難ケース

	が増えてきている。数だけではないところで業務が増えている。 （包括みなみかわち山下センター長） 　件数だけでなく、中身の面で多様化している。共生社会と言われているが、高齢者だけでなく、家族の中に障がい者がいたり、精神疾患を持っている方がいたり、8050 問題など多様化している。南河内地区では、新興住宅地と農村地帯で違う支援が必要になるため、データでは表せない部分がある。 （伊沢会長） 　質の高い支援を提供するのであればそれなりの人員配置は必要。前向きに人数の増員にいて検討してほしい。 　他に質問はあるか。 （鶴岡委員） 　昨年度は書面開催だったので、今回は現地開催できてよかった。新型コロナウイルス感染症についても第５類になり、昨年度は虐待が増えていたり、家族交流会が中止になっていたりと影響があったので、今年度は力の入れどころだと思う。 　地域包括支援センターの人員を増やした方が良いという意見がある中、昨年度は書面開催だったが、自主的な業務の振り返りチャートが示された。３包括すべてが100％との回答だったが、実際について聞きたい。どこが出来なかったか振り返り、次回に活かした方が良いのではないか。 （包括こくぶんじ髙津戸センター長） 　国の調査基準に回答した形で 100％となっている。下野市の高齢者福祉政策で示しているものについては十分でない部分もあるので、関係機関と連携しながら実施していきたい。 （伊沢会長） 　その他質問はあるか。 （伊澤委員） 　思う所を申し上げる。地域リハビリテーション活動支援事業について高齢者と保健事業の一体的実施ということで、自分自身も講座を受けたが、とても良い事業だった。年々高齢者が増えていく時代でこういった事業は、認識の高まりに繋がる。多くの人が参加されているようなので、引き続き実施してほしい。 （伊沢会長） 　以上で議事は終了とする。事務局へお返しする。
6　その他	（司会） 　その他特になし。
7　閉会	